

ごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

90号



環境コミュニケーションで元気と笑顔を！
イズミヤ株式会社

ボードゲームに込めたメッセージ
NPO 法人 環境安全センター

温かい循環の場「naked market」
学生レポート

なごみ日和
「うつむいたらあかん」

もっぺん物語
「メガネ・補聴器のギルド」

堀川の落ち葉をたい肥化
中立エコ生活推進会議

表紙デザイン
嵯峨美術大学 デザイン学科 3年
稲堂丸 怜菜

この数字なあに？

97億

答えはwebへ！

*トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。



京都市ごみ減量推進会議



お話を伺った中村智恵美さん（左）と井上薫さん

環境コミュニケーションで 地域に元気と笑顔を！

イズミヤ株式会社

「ええもん安いのがイズミヤ〜♪」。関西人ならこのTVコマーシャルを覚えている人も多いだろう。“ええもん安いの商道を追求し、社会に貢献する”ことを経営理念に掲げ、地域に根ざしたスーパーマーケットを展開するイズミヤ。現在、近畿一円に79店舗^{※1}を運営している。2020年から食品スーパーとして再スタートを切り、より地域に密着した店づくりを進めている。今回はイズミヤ株式会社 総務部 エコロジー推進担当の中村智恵美さんと井上薫さんにお話を伺った。

創業100周年を迎えた “エコロジーのイズミヤ”

「スーパーで廃棄される食材を施設内の動物に」。ある日のネットニュースにこんな見出しの記事が載った。内容は、大阪のららぽーとEXPOCITY内にある「デイリーカーナートイズミヤ」と、生き物ミュージアム「ニフレル」が連携し、廃棄食材を動物の餌に活用する取組を行っているというもの。

2021年5月3日に創業100周年を迎えたイズミヤでは、「地域と一緒にやっぴこうプロジェクト」と題したイベ

ントが繰り広げられていた。これは地域社会への感謝と、次の100年も地域で愛される企業であるために地域貢献活動を行い、地元を元気にしようという100周年を機にスタートした取組である。今回お話を伺ったお二人の所属が「総務部 エコロジー推進担当」と環境の専任者がいることや、20年前（2001年）に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証^{※2}を取得していることからわかるように、同社では早い時期から環境負荷を低減する事業活動に努め、環境保全の啓発活動などに積極的に取り組んできた歴史があった。

お客様との環境コミュニケーション

同社は1921（大正10）年に大阪市西成区で開業、わずか7坪の「いづみや呉服店」から始まった。長年、衣食住を総合的に取り扱う大型総合スーパーを展開してきたが、2014年のエイチ・ツー・オー リテイリング株式会社との経営統合を経て、さらなる成長に向けて店舗再編を行い、2020年4月から新体制がスタート^{※3}。食品に特化したスーパーとして、地域特性や客層に合った品揃えと売場展開で、お客様に寄り添う店づくり、なかでも、お客様参加型の環境活動をさまざまな形でやっている。例えば、近隣小学校の子ども達に『エコロジーなぞなぞぶっく』を使って楽しみながら環境の大切さを伝える「エコ学習会」、店頭で設置した回収ボックスに牛乳パックやペットボトル等を持ってきてもらう「リサイクル資源の店頭回収」、パートナー企業と連携して行う「エコイベント」や「エコツアー」。その他、1998年からスタートした「マイバッグ持参運動」はレジ袋が有料になった現在も取組を継続して

おり、2021年6月現在、持参率は85.1%に達している。こうした基盤があつての「地域と一緒にやっぴこうプロジェクト」。店舗ごとに地域の子育て支援団体と連携して、「エコ&見学会」や「店舗の敷地を利用した花壇づくり」、自治体や地域団体、事業者と連携・協働してペットボトルを回収し「ボトルからボトルを作る」マテリアルリサイクルなどに取り組んだ。



将来を担う子どもたちに環境の大切さを伝えるエコ学習会。2020年度は14回の学習会を実施し541人が参加した

※1 株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発店舗含む

※2 2016年2月末でISO14001認証は終了し、現在は独自の環境マネジメントシステム（EMS）で運用

※3 2020年4月1日より現GMS/スーパーセンターにおける商業施設運営事業並びに衣料品・住居関連品販売事業を株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発が継承

環境にやさしい店づくり

店舗の照明、空調、冷凍・冷蔵ショーケース……食品スーパーは電力の負荷率が高く、地球温暖化防止の観点からCO₂削減は大きな課題である。

同社では新規出店や店舗改装の際には、冷気を逃さない扉付き冷凍ショーケースや氷蓄熱システム、照明のLED



店舗の敷地内に設置された古紙・古本の回収ボックス「えこすぽっと」。1kgごとにポイントが貯まり、イズミヤの商品券と交換できる（写真は桂坂店）

食品スーパー最大級の課題、食品廃棄物

「長年、ごみの回収業者に概算で支払いをしていたのですが、各店舗に計量器を導入し、ごみを分別して正確に計量するようになったところ、排出量も回収コストも大幅に減りました」と話す中村さん。排出量を“見える化”したことで、従業員一人ひとりの「削減しよう」という意識が高まったことが成果につながったようだ。

同社では、食品の調理くずなど食品廃棄物を飼料に再生して鶏を育て、産んだ卵を再び店舗に供給するという「食品のリサイクルループ」を構築中である。『『エコの森 京都』（京都府長岡京市）で飼料に加工してもらうのですが、関

みんなが笑顔に！ お客様も動物もお店も

そんな中、冒頭で紹介したニフレルとの連携による取組が2020年12月から始まった。「スーパーで廃棄される食材を動物たちの餌として活用できないだろうか」とららぽーとEXPOCITYの職員を介してニフレル側から提案があった。売れ残りや検品ではじかれた野菜や果物、取り除かれた外葉やヘタ、皮、カットした端材などを週2回提供。それを獣医師やスタッフが選別し動物たちに給餌される。

イズミヤ株式会社 総務部

〒557-0015 大阪市西成区花園南1-4-4 TEL：06-6657-3455 FAX：06-6657-3398
URL: <http://www.izumiya.co.jp>

化など、省エネ効果の高い設備を導入しCO₂排出量の削減に努めている。既存店においても、これらの省エネ機器を順次導入し、冷蔵オープンケースの夜間カーテンを設置するなど、株式会社エイチ・ツー・オー 商業開発と共同で細かな省エネ対策に取り組んでいる。

さらには、CO₂だけでなく、お客様の家庭から出る食品関連のごみを削減できるよう、農産物や水産物のコーナーでは盛り売り・ばら売りをを行い、容器包装の削減、再生トレーの使用および店頭での資源物回収など、販売・陳列方法などにも工夫をしている。

こうした取組が評価され、2020年12月、京都市内にある10店舗が温室効果ガスの排出量削減実績が特に優れた「特別優良事業者」であるとして京都市より表彰された。



特別優良事業者の表彰式。門川大作京都市長とイズミヤ総務部部長 伊東伸介さん

西には食品リサイクル施設が少なく、焼却するより費用がかかる上、遠方の店舗から持ち込むとなればさらに費用がかさむので、現在リサイクルに出しているのは京都の数店舗だけとのこと。しかしながら、加工食品を対象とした販売期限の延長など、店舗側の食品ロス削減にも積極的だ。



ごみの量を部門・分類別に計測できる廃棄物計量システム（計量器）を導入

「ニフレルさんとの連携については現場主導で話が進みました。これまで廃棄していたものを動物に食べてもらって有効活用できるのは嬉しいですね」と井上さん。食品ロスの削減だけでなく、廃棄コストの削減、ニフレル側には動物たちが珍しい餌を食べ刺激を得ることで、生き生きとした生活ができる効果があるそうだ。

国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）にも含まれる食品ロス削減に寄与するこの取組。規模にすれば僅かではあるが、こうした取組の積み重ねが、食品ロス問題の解決につながっていくのではないだろうか。

藤原幸子（2021年10月21日取材）



ボードゲーム『みんなのごみ』、 制作に込められたメッセージ



京都環境フェスティバル2018にて

特定非営利活動法人 環境安全センター

環境問題の中でも、特にごみに関連する課題を調査研究し、研究に関連した出版物の作成や啓発学習ツールの開発などを行っている特定非営利活動法人 環境安全センター。2017年～2019年にかけて、同センターでは、ごみを出さない暮らしや社会の仕組みについて理解を深めることができるボードゲームを制作した。その名も、『みんなのごみ』。ゲーム制作に込められた想いについて、制作担当の大関はるかさんにお話を伺った。

運命の出会い

ボードゲーム『みんなのごみ』は、大関さんと手作りボードゲームチーム「たなごころ」^{※1}との出会いがきっかけで誕生した。「ユニークなボードゲームを作る、凄い人たちがいる！」。大関さんは、彼らが作ったボードゲームの世界観に魅了され、ファンになったという。

そもそもボードゲームとは、卓上でボードやコマ、カードなどを使って遊ぶゲームのことで、オセロやチェス、双六^{すごろく}などがある。大関さんは、ボードゲームの楽しさ、ごみのことも

り多くの人に知ってもらいたいとの想いから、「ごみ」をテーマとしたボードゲームの制作に挑戦した。



ごみに関わる専門家との会議の様子

試行錯誤の連続

ボードゲームの制作にあたっては、廃棄物の専門家、家庭ごみの収集運搬やごみ処理場で働く方、ごみの減量に取り組むNPOなど、ごみのスペシャリストに意見を求め、ごみ減量に繋がるアクションを一つ一つ挙げていった。実際に、市内の施設だけでなく豊中市伊丹市リサイクルプラザなどにも足を運び、ごみの入口から出口までをどのようにゲームに盛り込めばごみの行方を疑似体験でき、ごみを身近に感じてもらえるのか

何度も話し合い、試作を行った。「自分たちの手で、一からボードゲームを作り上げることがこんなに大変だとは、正直思っていなかった」と大関さん。しかし、ごみについて考える機会が少ない人にごみの現状を少しでも知ってもらいたい、そして何より家族や友人と一緒に楽しめるボードゲームを作りたい一心で、約3年の歳月をかけ、納得できるゲームができた。

ゲームを通して、プレイヤーが成長！

ボードゲーム『みんなのごみ』には、身近なものも含めて実に様々な「ごみ」が登場する。コンビニ弁当の容器やペットボトル、読み終わった雑誌や段ボール箱。小さくなった子ども服や去年買ったが今後着る予定のない服。家の模様替えや引っ越しで不要になった家具、更には住む人が居ない空き家まで！どんな工夫をすれば「ごみ」を「資源」として活かせるのか、そもそも「ごみ」にしない、「ごみ」を増やさないためにどのよ

うな選択肢があるのか。プレイヤー達は、ゲームであることを忘れて、真剣に考え、互いにコミュニケーションを取りながら、徐々にごみ減量のエキスパートに成長していく。プレイを進めるうちにゲーム内での一人ひとりの個性が感じられ、プレイヤー自身の暮らしの中での課題や人との関係性までもが見えてくるのが、このゲームの醍醐味だ。

ゲームの鍵は「心のゆとり」と「コミュニケーション」

ではなぜ、ごみを減らすのか。その答えのヒントは、ごみが最後にたどり着く「最終処分場」にある。京都市の燃やすごみの焼却灰は、エコランド音羽の杜（東部山間埋立処分場）^{※2}と大阪湾フェニックスセンター（大阪湾広域廃棄物処分場）^{※3}に運ばれるのだが、ごみの焼却・運搬や最終処分場の建設・維持には莫大な費用がかかる上、1つの処分場が受け入れることができるごみの総量は決まっている。私たち一人ひとりが、ものを大切に、長く使う暮らしをすれば、その分ごみが減り、最終処分場などの施設をより長く利用することができるのだ。

このゲームを進めていくと、お金があるからといってより多くのごみを減らせるわけではないことに気付く。無駄のない、軽やかな暮らしは「心のゆとり」があればこそ！では、どうすれば「心のゆとり」を持った暮らしができるのか？答えは簡単には見つからないが、ごみを減らすための80のアクション^{※4}をヒントに、プレイヤー同士が「ごみ」について語り合い、「ごみ」のことで知り、「ごみ」との付き合い方を考える過程できっと見つけられるはず。活発なコミュニケーションこそが、ゲームクリアへの大きな鍵であり、ごみ問題解決への近道なのだ。

最近では、買い物時にレジ袋を使わないのが「当たり前」になってきているが、ルールがそうだったからという消極的な行

動にとどまり、それ以上には減らない現状がある。大関さんは、「自分から変わってみよう！」とエールを送る。

今後は、大学や企業研修等でも「みんなのごみ」を活用してもらえ、ごみ問題に興味を持ってもらうきっかけ作りやコミュニケーションツールとして役立ててもらいたいと希望を語った。



取材時、実際にゲーム体験をさせていただいた。右手前が大関さん

※1…手作りボードゲームチーム「たなごころ」は、できる限り手作りすることを大切にしながら、多世代で楽しめるオリジナルボードゲームを多数発表している。

※2…京都市の不燃物やごみの焼却灰を埋立処分している施設。

※3…大阪湾に埋立処分場を設け、近畿2府4県168市町村の受入区域から発生した廃棄物を受け入れている。

※4…『みんなのごみ』の副読本。ゲームに登場する「ごみを減らすための80のアクション」の具体的な方法や背景を紹介。

☆ゲームの遊び方が分かる動画を、環境安全センターのウェブサイトで公開しています

(<http://gomi.tank.jp/index.php>)

初めての人同士でもゲームの流れがよく分かり、より楽しめます。

「みんなのごみ」をもっと知りたい方、どんなゲームなのか気になる方もぜひご覧ください！



ボードゲーム 「みんなのごみ」 特別展のご案内

2022年1月17日（月）13時～1月29日（土）16時まで

京エコロジーセンター1階展示室にて、「みんなのごみ」を実際に体験できる特別展を開催します。1月22日（土）、29日（土）の11時～16時には、環境安全センターのスタッフが「みんなのごみ」の遊び方をレクチャーしますので、ご家族・ご友人と一緒にぜひご参加ください。企業の方のご参加も大歓迎！副読本も展示します。



ゲーム概要

ごみを燃やしたあとの灰や不燃物を埋め立てる最終処分場。そこは遠くない将来、いっぱいになり使えなくなります。プレイヤーは、とある町の住人となり協力してごみを減らします。

「壊れたおもちゃは直して、プラスチックごみを減らします！」

「だれか紙ごみを減らせる人はいませんか？」

「台風で大量のごみが出たぞ！どうする？」

ごみを減らす行動に必要なのは、「知識力」「目利き力」「技術力」「人間関係力」の4つの能力。そして一番大切なのは、心のゆとり！

自分の家のごみも一度出せば、みんなのごみ。

ごみの発生を抑えるリデュース、再使用するリユースを中心とした暮らしの中で最終処分場をあふれさせないように、みんなでごみを減らそう！

（「たなごころ」公式URL <https://bg-tanagokoro.hatenablog.jp/entry/2019/03/10/015658>より一部加筆）



特定非営利活動法人（NPO法人）環境安全センター

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋（つづらや）町515-1 ひじきビル3F

電話：075-708-8152 FAX：075-708-8153 E-mail: anzen@gomi.tank.jp <http://gomi.tank.jp/>

松村香代子（2021年10月13日取材）

Hand in Hand

地球に優しい生活を選択する ～持続可能な循環の形を体験できるマーケット～

『naked market (ネイキッドマーケット)』。それは使い捨てプラスチック容器包装を使わずにお買い物を楽しめる、今注目のお店のスタイル。プラントベース^{*1}を土台に、ひとりひとりが人と地球に優しい行動を試みながら、温かい循環の場を作り上げています。今回は、主催者であるMaaya Hanson (マーヤ・ハンソン) さんにお話を伺いました。

naked marketを始めたきっかけや想い

naked marketは2020年7月に始まりました。生活の中で無意識に捨てている使い捨てのプラスチックの多さを無視できなくなり、農家さんから直接購入したお野菜をプラスチックフリーで購入できる機会を作りたいというMaayaさんの想いから生まれました。プラスチックフリーでお野菜を販売することで、見た目や鮮度を気にするお客様が購入をためらうリスクがあるかもしれない、というお話を農家さんから聞いていたMaayaさん。しかし、コンセプトをしっかりと打ち出すことで、このようなお買い物方法を求める方たちと生産者との間に信頼関係を築きながら、持続可能な循環の形を体験できるマーケットを開催できるのではないかと考えました。



Maaya Hansonさん(左側)。naked marketで販売されているヴィーガンプレートと共に。

今後のビジョン

当初から、イベントを大きくするのではなく、小さいながらも温かい気持ちとともに楽しく継続していくことを目標にしながら始めました。今、出店者を含め、足を運んでくださる方や人の繋がりが自然な形で広がり続けています。今後も自然な形の中で広がりが生まれることをイメージしながら、個人的には毎月のnaked marketを大切なベースとして継続していくことを目標にしています。naked marketとしては、『出店をしてきている農家さんの畑でファーム体験をしたり、クリエイターたちが並べている作品の背景を学ぶことができるような、校外学習的な機会を作りたい』というビジョンがあります。naked marketで体験している循環の形は、近い未来の暮らしの形でもあると感じています。

naked marketに訪れ、お話を聞いて

2021年10月10日に、ヨガスタジオTAMISA (タミサ) 三条寺町で開催されたnaked marketを訪れました。主催者のMaayaさんをはじめ、出店者の皆様も明るく優しい方ばかりで快くお話を聞かせてくださり、現在に至るまでの背景や想いについて知ることでより一層マーケットに魅力を感じました。

皆が皆、同じものを選択するのではなく、何を選択するかひとりひとりがそれぞれ考えることが大切だというMaayaさんの言葉が印象的でした。



SOL FARMさん
丹波篠山黒枝豆の量り売り、農業・化学肥料不使用のお野菜を販売



発酵茶 Yin Kombuchaさん
コンブチャの量り売り。空のタンブラーや水筒を持参すると、そこに入れてもらえる。

^{*1} プラントベース…日々の食事に、植物性の食品をより多く摂り入れていこうという考え方。



NAKEDMARKET.NYOTO

丸山 芽依奈 (京都光華女子大学キャリア形成学部)
(2021年10月10日取材)

なごみ
日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●●第32回 「うつむいたらあかん」●●

どんな状況であっても、文化、希望をつないでいく。2021年10月に行われた末生流笹岡三代家元継承10周年記念のいけばな展。笹岡隆甫家元はそんな思いで、自身がランナーをつとめられた東京オリンピックの聖火リレーのトーチを花器に見立て、生けられました。

私と家元との出会いも10年前。毎週30分の番組で一緒させて頂いたことがきっかけでした。その年に家元を継承され、私も華道のお稽古にいくようになり、ご縁が繋がっています。家元継承披露宴にも行かせて頂いたのですが、その時のお話で印象的だった言葉があります。生け花から「うつむいたらあかん」

海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」「news フェイス」、ラジオ「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」などに出演中。

ということをお話です。「お花の顔を上向きに生けてあげると美しく見える。それは人間も一緒に、辛いことがあったとき、ついつつむきがちになってしまうけれど、そんな逆境にも負けないで、上を向いて人生を歩いていかなければいけないんだよ。」そうお花が語りかけてくれる、ということをお話していました。

10年を経た今、新型コロナウイルスという苦難の時代の今、私もお花の前に、その言葉を思い出していました。こんな状況でも、文化、希望をつないでいく。そしてつないでいくのは人、人の思いです。10年後、50年後、100年後につなげていくために…。花を愛でたり、文化にふれたり、環境に配慮したり。そんな小さな心がけが、明日を希望ある未来に変えていくのかもしれない。



人と物と。 織りなす「もっぺん」物語



第19回

おひとり、おひとりに快適な生活を「メガネ・補聴器のギルド」

明るく、優しいお人柄がしみ出る統括部長の本川栄治さん。取材中もお客さんが相談の為に、入れ代わり立ち代わりやってきた。

メガネ・補聴器のギルドは創業40年以上続く会社で、令和3年1月には、京都市輝く地域企業表彰の「地域企業輝き賞」を受賞。地域の人が気軽に立ち寄れるお店で、修理をしたお客さんから畑の野菜などを差し入れに貰うこともあるそうだ。

目の動きは複雑で、生活の場面によって快適なメガネは違う。場面にあったメガネを使い分けることが、実は目にとっては心地よい。つまり負担が少ない。



メガネの調整をする本川さん



本川さんも愛用する補聴器
充電ができる最新式で、電池のごみがでない優れもの

補聴器も、ただ音量を大きくするものではない。音の聴こえの好みは人それぞれ。また、生活環境も人によって違うので、補聴器の調整はお客さんの家を訪問して行うことが多い。例えば、洗い物の音が心地よく感じる人もいれば、そうでない人もいる。人と話すために聴力が必要なわけではない。視力についても同様だ。ひとりひとりが本当に快適な生活を送るためにサポートをするのが、メガネや補聴器なのだ。

メガネも補聴器も買った時が終わりではなく、自分に合った状態になるまでなんども相談・調整をして自分だけのメガネや補聴器に仕上げる。

時の流れと共に視力や聴力の状態が変われば、その度に丁寧な調整や修理を行う。そうすることで、長く愛用でき、快適な生活を送り続けられる。

「お店で少し修理するだけで直るものも多く、直すとお客様の生活の質が上がる。合わないものを我慢して使って欲しくない。」と本川さんは語ってくれた。



遠くからでも見つけやすいお店の看板

※京都市輝く地域企業表彰…地域に長年親しまれている事業者をはじめ、安心安全への貢献、文化の継承、自然環境の保全、多様な担手の活躍支援等、地域に根ざして企業活動に取り組んでいる事業者を対象に表彰する制度。

▶株式会社ギルド 京都市右京区梅津北浦町4-6 電話：075-872-7179 <http://www.megane-guild.com/index.html>

岸さゆり (2021年10月16日取材)

堀川の落ち葉を 子どもたちと一緒にたい肥化

～未来につなぐ環境活動～

「地域の人々が育んできた街の姿を次世代へ」。こんな思いに駆り立てられ環境活動に取り組む人は少なくないのでは。小学校に通う子どもたちと手をとりあって落ち葉のたい肥化に取り組んでいる中立エコ生活推進会議（以下、中立エコ）。実践の現場を訪ねました。

平安時代からの川が コンクリートで固められて…

中立エコの活動拠点は、京都市内のど真ん中。落ち葉ってどこに？と思いつきながら話を伺うと…。「堀川ですよ」と聞き、驚きました。



一条戻り橋の南、緑豊かな中立売あたりの岸辺風景

堀川通は、京都市内を南北に走る幹線道路。24時間自動車の走行が絶えない通りの一角に、緑豊かな水辺があります。数々の伝説で知られる一条戻り橋付近の一角です。路面から見下ろすと、川底は渓谷を思わせる深さ。岸辺には木々が生き茂って、さながら森のよう。プラタナスなどの大樹も少なくありません。

平安時代には木材などを運ぶ運河として、また、近世は友禅染めなどに利用されていました。昭和に入ると浸水被害のため、水源が断たれ、雨天時の放流先としての機能を優先するため、コンクリートで固められた水路となりました。

緑豊かな親水公園に復活 ホタルの名所として有名に

「堀川に清流を蘇らせよう！」という地域住民の願いが募り、1997年ごろから堀川水辺環境整備事業が立ち上がります。土を入れ、木を植えるなどして、緑豊かな水が流れる親水公園として復活したのです。

2007年「堀川にホタルを！」という声が地域住民から上がります。ホタルの幼虫や餌となるカワニナも放流され、数々の努力が実を結び、2009年にはホタルが暗闇に飛び交うように。今では、街中で蛍が飛び名所となりました。



地域活動に尽力する藤原信生議長（右）、岡田精史副議長（左）

落ち葉が土に 循環のかたちが見える

堀川沿いに立ち並ぶ木々の葉は、やがて落ち葉となるため、地域の人々は定期的に清掃活動を行い、落ち葉を掃き集めては、袋詰めにして捨てていました。

新町小学校4年生の子どもたちが環境学習の一環として落ち葉を掃き集めることになったのは2019年のことでした。

翌年に、簡単に落ち葉がたい肥化できる袋状の資材があることを知り、使用を始めました。今では袋の中でサラサラの落ち葉たい肥になりました。これを混ぜた土にタネをまき、植物が育ちつつあります。

自分たちで集めた落ち葉が、土に還り、その土に植物が根を張り、収穫して食べる…。来年は、サツマイモ、ジャガイモなどの収穫が期待できます。「これこそ生きた環境学習です」と藤原信生議長は、温かな眼差しで語ります。



袋状の資材に落ち葉をつめて



数ヶ月後にはサラサラの土に

コロナにめげず 毎月、回覧で環境情報

自粛が続く環境活動もままならなかったこの2年間、特に力を注いだのは啓発活動。まずは情報からと食品ロスの削減やプラスチック容器包装や資源物の分別方法など、毎月テーマを決め文書にまとめて、町内回覧しています。学習会などの開催が限られる中、回覧による情報提供が「貴重な取組となった」と副議長の岡田精史さん。

子どもたちと一緒に、前向きにエコ活動を重ねてきた中立エコ。地域愛に溢れて、美しいまちづくりに邁進してきた熱意に圧倒されました。

森田知都子（2021年10月12日取材）

新コーナー 『わたしのごみ減らし術』 ▶ 着なくなった衣服がアイデアひとつで大変身

なぜか袖を通さなくなった服。ちょっと手を加えてみたら、イメージ一新。見違えるほどおしゃれに。袖を切って身頃部分はベストに、袖はアームカバーに。見方を変え、ちょっと手を加えるだけで新アイテムになって活躍しています。ヨレヨレになったTシャツは、小さく切って、油污れの拭き取りなどに活用しています。

（上京区 Tさん）

